

閉会挨拶 北上済生会病院事務長 小笠原秀俊

北上済生会病院事務長の小笠原でございます。会場にご参加の皆様、それからウェブ配信でご視聴の皆さん、本日は誠にありがとうございました。本日ご登壇いただきました講師、コーディネーター、シンポジストの皆様には、貴重なご講演、事例紹介をいただきまして、また熱心な意見、情報の交換、事前の準備もかなり大変だったのではないかなと思われま。本当にお疲れ様でございました。

本日の開催にあたりましては、本当に多くの皆様からご支援、ご協力をいただいたところであり、改めて厚くお礼を申し上げます。

ご案内のように、今回のシンポジウムは凶らずも当地岩手が 10 回目の節目となったわけですが、コロナ禍の中の開催でありますとか、動画配信を含むハイブリッド開催、未経験の部分も多い中で、この 1 年ぐらいの間、スタッフはかなり試行錯誤を重ねてまいりました。不安も多かったところがございますし、実際に至らない部分もあったかと思ひますが、その点についてはご容赦をいただければと思ひます。

最後まで、こうやってこぎ着けることができましたので、安堵の気持ちが募るということで、むしろ名残惜しいという感じも出てきておりますが、こういった気持ちも含めまして、次回以降の開催の関係者にエールとともに、託したいと思ひます。

今後とも、このような議論、情報交換の場が継続されまして、課題解決の道は遠いと思われるところもありますが、さらに気運が高まっていくことを祈念しております。

それでは以上をもちまして、第 10 回済生会生活困窮者問題シンポジウムを終了いたします。次回開催のシンポジウムでの再会を楽しみにしております。本日はどうもありがとうございました。(拍手)